

# 和地ひとみレポート No.129

## 今年度、初の試み「中学生アメリカン・サマーキャンプ」 児童・生徒に様々な良い刺激を与える事業は継続を



### ■今年度初の事業

…今年度の予算の中でも、初の試み、言い換えれば学校教育事業のなかでも目玉事業として示された『中学生アメリカン・サマーキャンプ』事業。去る7月24日～26日の2泊3日でこのキャンプが実施されました。この事業は、東京都市長会の政策提言を受け『公益財団法人 東京市町村自治調査会』が平成21年度まで実施していた「多摩・島しょ広域連携活動助成事業」と「多摩・島しょ子ども体験塾助成事業」を平成22年度に統合・再構築した「多摩島しょ広域連携活動助成金」を利用して東大和市が初めて実施した事業です。この助成金は多摩・島しょの魅力が高めることを目的に、2以上の多摩・島しょ地域の市町村で組織する協議会、研究会、連絡会等に対して事業費を助成するもので以下の2つの事業が対象となっています。

- ① 多摩・島しょの魅力が高める事業で、子ども（18歳以下）を対象とした高度で大規模な感動体験を提供する事業＝「子ども体験塾」（助成率10分の8、連携する市町村数や人口により、年間1,200万円以内）
- ② 多摩・島しょの魅力が高める事業のうち、子ども体験塾を除く事業＝「一般連携活動」（助成率10分の10、年間500万円以内）

今回の東大和市の『中学生アメリカン・サマーキャンプ』は昭島市、国分寺市が先に始めていた事業に東大和市も加えてもらったことにより、実現しました。

### ■東大和市からの参加者は

…このサマーキャンプは八ヶ岳にある「調布市八ヶ岳少年自然の家」で行われ、事業自体はJTBが企画しているものです。アメリカの大学生を現地で募集し、子どもたちの指導にあたるためのトレーニングを受けさせ、サマーキャンプのリーダー役として派遣。子ども5～6人を1チームにし、各チームにアメリカの大学生が1人付く形で様々なプログラムを体験できます。チームに付く大学生は日本語は一切、話せない中、子供たちは覚えている単語、ジェスチャーを駆使してコミュニケーションを図っていたとのこと。最終日には、自分のことと将来の夢をグループ内で英語でスピーチして各グループの代表を決め、最終的にはグループ代表をみんなで応援する中、代表者は全参加者の前でスピーチをするところまで行ったそうです。

…今回の企画は、会場となった「調布市八ヶ岳少年自然の家」の収容人数の関係もあり、東大和市の割り当ては30名。募集を開始した当初は部活動などの関係もあり、応募人数は伸び悩んだそうですが、最終的には

40名近くの応募があり、最後は抽選で参加者を決定。参加費用は各自¥7000ですので、来年はより多くの子供たちに応募してもらえればと思います。

…また、先行して実施していた国分寺市、昭島市では小学校5年生、6年生も参加できる形としており、各市45人ずつ小学生も参加。東大和市は後からこの事業に参加したため、小学生枠は今年はありませんでした。現地の様子を見に行った担当者のお話では「過去から経験のある2市の児童生徒は初日から積極的だった」「東大和市から参加した生徒は初日は緊張している様子で、なかなか話を積極的にする感じではなかったが、2日目からは積極的になっていった」という話もあったので、できれば来年度は2市に調整いただき、東大和市にも小学生枠を少しでも与えてもらえれば…と感じました。

### ■外の刺激を受ける重要性

…今回のサマーキャンプで参加した生徒たちが体験できたことは「外との繋がりの中で得られる刺激」です。もちろん英語を実際に使うことや、アメリカの文化を学ぶこともそうですが、他市の生徒との交流にも多くの刺激を受けていたようです。

…実際に、3日間、英語を使ったからといって、すぐに英語力が高まるということは難しいことですが、アメリカの大学生、他市の生徒と触れ合うことで、今まで気づかなかったことに興味を持ったり、関心を持つようになることは、のちのち色々なことに役立つと思います。

…東大和市の児童、生徒は他の自治体から赴任してきた教師からは「素直」「素朴で子どもらしい」ということを褒められることが多い一方で、もっと外からの刺激を必要としているということもあるようです。真如教育長も子ども達の良いところを維持しながら、もっと可能性を引き出すためにも様々な体験や刺激を与えてあげるための取組みを毎年、少しずつ取り入れているとのこと。

…今回の事業に使用した助成金の条件は「2以上の多摩・島しょ地域の市町村で組織する協議会、研究会、連絡会等で行う事業」となっていますが、今年度は「子ども体験塾」事業は19事業あり、東大和市はそのうち3事業（「スナッグゴルフ体験塾」「子ども雪国体験事業」「英語チャレンジ体験事業＝中学生アメリカン・サマーキャンプ」）に参加しています。（裏面につづく）

今後はその他の事業についても他の自治体と組んで、積極的に参加することも検討してもらいたいと思います。

## ■助成金がなくても

…このような助成金は申請を出さなければ取れません。

また、都の補助金なども同じです。助成金や補助金を得ると、それを活用しなければならない＝事業が増えるという部分も

ありますが、せっかくの助成金、補助金の制度なので、市はアンテナをしっかりと張って、市の活性化のために、このような制度を大いに活用すべきです。

…今回の事業の担当者に話を聞いたところ「今回のような体験をより多くの子ども達にさせたい」「子どもたちが良い刺激を受けて、顔つきが変わった」とのことでした。しかし一方で、今回の助成金を使用したこの事業に関しては3年限定だとのこと。公益財団法人 東京市町村自治調査会では子ども体験塾に関しては助成年限はないとなっていますから、助成金が廃止にならなければ3市で今後も事業を継続していくことを決められれば継続できるのではないかと考えます。しかし、前述のとおり、3年限定とした場合、あと2回実施したあとは、この事業はなくなってしまうということです。

…東京オリンピックの開催が決定したことにより、東京都からも異文化を知る活動や英語活動に関する新たな補助金なども設定される可能性は大きいですが、子ども達に良いことだとわかったなら、市の独自事業にまで発展させることを積極的に検討すべきだと思います。

…今回の『中学生アメリカン・サマーキャンプ』の予算は188万4,000円です。以前、私が議会の一般質問で取り上げたとおり、東大和市の教育費は額も全体予算に占める割合も、まだまだ他の自治体と比較して少ない状態です。予算については、事業の内容を見直せば捻出できると私は考えます。例えば年間4,000万円～5,000万円かかっている市の切手にかかる費用。議員に対してもFAXではなく、わざわざ郵送で送られてくる書類が沢山あります。市が発送する書類の中には電子メールに変えることができるものも沢山あるはず。こういった事業の内容を見直すだけで190万円という予算は容易に捻出できるのではないのでしょうか。また、今回の事業を参考にもっと多くの子どもたちが体験できるような事業に変化させることも可能です。



## ■行政にしかできないこと

…市が行う様々な事業の中でも「福祉」「教育」といった行政がしっかりとやらなければならないこと、言い換えれば行政にしかできないことがあります。そして、その内容と質を向上させることが、その自治体の発展につながると考えます。

…今回の新たな事業の導入はとても良いことです。確かに新規事業は手間がかかる部分もあります。しかし、今後も、積極的に行政が行うべき事業、特に未来への投資とも言える教育関連事業については、今回の「英語体験」だけではなく、様々な分野で子ども達が色々な体験ができることを積極的に取り入れていくべきです。そして、子ども達が「東大和市で教育を受けて良かった」と思えるよう、また、多くの保護者が「東大和市で教育を受けさせたい、子育てをしたい」と思われるよう、今後も予算面、事業面ともに市に要望していきたいと考えています。

## 『中学生アメリカン・サマーキャンプ』

### ■東大和市からの参加者

…男子20名、女子10名

※各中学校からの参加者が

均等になるように、公平な抽選により参加者を決定。



### ■国分寺市、昭島市からの参加者:

各市ともに中学生30名、小学生45名

### 【主な内容】

～1日目～

- ・英語活動 : 1分間ドリル、マイストーリー作成
- ・異文化体験: ダンスパーティー

～2日目～

- ・英語活動 : 1分間ドリル、マイストーリー作成、グループディスカッション
- ・異文化体験: アメリカン・カーニバル、レクリエーション、キャンプ・ファイア

～3日目～

- ・英語活動 : マイストーリーを使用した英会話と発表

## 市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

「身近なように知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」



東大和市 市議会議員  
和地 ひとみ

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。／『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後もベンチャー企業を選び不動産投資会社に勤務。／同じビジネス界出身の加藤公一代議士との出会いに触発され、政治への道を志して2010年末に退社。現在、新人東大和市議会議員として、日々、奮闘中。

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>

✉ [wachi\\_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp](mailto:wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp) 【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102